

【福島県合同輸血療法委員会】

輸血に関するアンケート調査集計結果（2020年度）【2022年9月16日時点】

診療所版

1 調査対象施設等

- (1) 調査対象施設：県内の診療所35施設（うち1施設閉院）
- (2) 調査対象期間：2020年4月から2021年3月まで
- (3) 調査方法：アンケートへの依頼文書を郵送で送付し、福島県薬務課のホームページよりファイル（Excel形式）でダウンロードし、記入したファイルをメールに添付した形で回収した。
- (4) 回収率：61.8%（21診療所から回答）

2 集計結果の概要（項目別）

◎集計結果の報告書を作成するにあたり、診療所名等を公開してよいか

可：7診療所（33.3%）

I 輸血管管理料取得状況について

取得医療施設なし：21診療所

II I & A取得状況について

取得予定なし：20診療所、無回答：1診療所

III 輸血療法委員会等について

- (1) 輸血療法委員会等の設置数（新設1施設を含む）

3診療所（14.3%）

- (2) 輸血療法委員会を設置しない理由（複数回答あり）

18診療所（85.7%）

（使用がほとんどない：11、他の委員会で協議：4、指導医がない：5、その他：0）

- (3) 輸血療法委員長の職種

医師（専門科目：泌尿器科：2、循環器内科1）

- (4) 輸血療法委員会の開催回数（回/年）

1回/年：2、12回/年：1

- (5) -1 認定臨床輸血看護師、アフェレーシスナース、自己血輸血看護師、認定輸血検査技師人数（合計）

該当診療所なし

- (5) -2 (5) -1のうち輸血療法委員会参加人数（医療施設数/輸血療法委員会有3施設）

該当診療所なし

- (6) 血液センター職員のオブザーバー受け入れ状況(新規追加)

なし：11、未回答：10

IV 指針等について

(1) 輸血部門の設置数等（複数回答あり）

輸血部門：4 診療所（19.0%）

{	検査部	1 件
	薬剤部	2 件
	その他	4 件

血液製剤保管場所（複数回答あり）

{	検査部	4 件
	薬剤部	4 件
	その他	11 件

(2) 自記温度計、警報装置の設置数等（複数回答あり）

自記温度計：8 診療所（38.1%）

記録の頻度	{	毎日	13 件
		月1回	1 件
		その他	2 件
		未回答	5 件

警報装置：9 診療所（42.9%）

冷蔵庫・冷凍庫の保守点検の頻度 { 毎日 7 件、年に1回 5 件、月に1回 2 件、週に1回 1 件、
その他 4 件、未回答 2 件

(3) 他の管理項目等

1) 運搬容器の設置：3 診療所（14.3%）

2) 輸血用血液製剤と血漿分画製剤の管理の一元化：5 診療所（23.8%）

3) 管理記録簿等：19 診療所（90.5%）

内訳（複数回答有）

手書き伝票：17、両方：1、その他：1

(4) 輸血前後の感染症検査の実施

全例：8 診療所、一部のみ：4 診療所、行っていない：9 診療所

1) 輸血前の感染症検査項目： HBV 11 件
HCV 12 件
HIV 6 件

2) 輸血後の感染症検査項目： HBV 9 件
HCV 9 件
HIV 7 件

(5) 輸血前の感染症検査用検体の保管等

全例：3 診療所（14.3%）、なし：15 診療所（71.4%）、未回答：3 診療所（14.3%）

(6) 遡及調査ガイドラインで求められる検査項目の認知（複数回答あり）

HBV：7 診療所（33.3%）、HCV：7 診療所（33.3%）、HIV：6 診療所（28.6%）、
知らない：11 診療所（52.4%）、未回答：3 診療所（14.3%）

V 輸血検査および輸血実施について

- (1) 患者血液型検査の二重チェック：8 診療所（38.1%）
- (2) 不規則抗体スクリーニング
- 1) 輸血前不規則抗体スクリーニング：17 診療所（81.0%）
 - 2) 間接抗グロブリン試験を含む検査法：11 診療所（52.4%）
 - 3) 陽性となった場合の対応：

{	民間の検査センター	12 診療所、自施設	1 診療所、
	血液センター	4 診療所、民間の検査センター・血液センター	1 診療所、
	未回答	3 診療所	
- (3) 交差適合試験
- 1) 輸血前交差適合試験：20 診療所（95.2%）
 - 2) 輸血に先立つ3日以内の検体を用いて実施：18 診療所（85.7%）
 - 3) 間接抗グロブリン試験を含む検査法：12 診療所（57.1%）
 - 4) コンピュータクロスマッチの実施：6 診療所（28.6%）
 - 5) 陽性となった場合の対応：

{	自施設	1 診療所、血液センター	4 診療所、
	民間の検査センター	12 診療所、	
	民間の検査センター・血液センター	1 診療所、未回答	3 診療所
- (4) 説明と同意（インフォームド・コンセント）について（複数回答あり）
- 1) インフォームド・コンセントを担当する主な職種：

{	医師	19 診療所
	看護師	2 診療所
 - 2) 頻回輸血における同意書の取得頻度：

{	月1回	5 診療所、3か月以上	1 診療所、
	週1回	3 診療所、取らない	3 診療所
	その他	6 診療所、未回答	3 診療所
- (5) 患者認証方法
- 1) ナースステーションにおいて複数名で確認している：19 診療所（90.5%）
 - 2) ベッドサイドで患者本人を確認している：21 診療所（100.0%）
 - 3) 電子照合システム導入：該当診療所なし
- (6) 経過観察
- 1) 輸血開始後バイタルチェック：

{	開始時・5分・15分・終了後	9 診療所（42.9%）
	開始時・15分・終了後	2 診療所（9.5%）
	5分・15分・終了後	1 診療所（4.8%）
	開始時・終了後	4 診療所（19.0%）
	5分・15分	1 診療所（4.8%）
	15分	3 診療所（14.3%）
	終了後	1 診療所（4.8%）

2)バイタルチェックの項目：	体温・血圧・脈拍・酸素飽和度	11 診療所 (52.4%)
	体温・血圧・脈拍・酸素飽和度・その他	1 診療所 (4.8%)
	体温・血圧・脈拍	4 診療所 (19.0%)
	血圧・脈拍	2 診療所 (9.5%)
	血圧・脈拍・酸素飽和度	1 診療所 (4.8%)
	血圧	2 診療所 (9.5%)

3)輸血終了後の継続的な患者観察時間：	30分～1時間	8 診療所 (38.1%)
	1時間～2時間	6 診療所 (28.6%)
	2時間～3時間	5 診療所 (23.8%)
	3時間以上	2 診療所 (9.5%)

4)使用済み製剤バッグの保管期間：	保管していない	15 診療所 (71.4%)
	輸血翌日	3 診療所 (14.3%)
	2～数日間	2 診療所 (9.5%)
	1週間以上	1 診療所 (4.8%)

VI 輸血用血液製剤使用状況について

全血液製剤使用単位数合計 526 単位

- (1) 赤血球製剤の使用量は 526 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、100.0%である。
(2) 血小板製剤の使用量は 0 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、0.0%である。
(3) 血しょう製剤の使用量は 0 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は 0.0%である。

VII 輸血用血液製剤廃棄状況について

全血液製剤廃棄単位数合計 2 単位

全血液製剤の廃棄率は 0.4%である。

- (1) 赤血球製剤の廃棄量は 2 単位。
(2) 血小板製剤の廃棄量は 0 単位。
(3) 血しょう製剤の廃棄量は 0 単位。

○輸血用血液製剤の在庫状況

輸血用血液製剤在庫有 0 診療所

VII 輸血患者および輸血使用状況について

(1) 年代別及び男女別輸血状況について

輸血患者総数	115人	(うち年代不明: 1人)
90歳以上	8人	(7.0%)
80-89歳	42人	(36.5%)
70-79歳	41人	(35.7%)
60-69歳	9人	(7.8%)
50-59歳	10人	(8.7%)
40-49歳	1人	(0.9%)
30-39歳	1人	(0.9%)
20-29歳	2人	(1.7%)
10-19歳	0人	(0.0%)
5-9歳	0人	(0.0%)
0-9歳	0人	(0.0%)
年代不明	1人	(0.9%)
男性	71人	(61.7%)
女性	44人	(38.3%)

(2) 診療科別輸血状況 (回答医療施設数: 21)

※うち1施設が、診療科別輸血患者数未記入

内科全体数	79人
消化器内科:	13人
循環器内科:	4人
呼吸器内科:	1人
血液内科:	0人
その他内科:	61人

外科全体数	0人
消化器外科:	0人
呼吸器外科:	0人
心臓血管外科:	0人
形成外科:	0人
整形外科:	0人
脳神経外科:	0人
その他外科:	0人

その他診療科全体数	55人
小児科:	0人
産婦人科:	3人
泌尿器科:	2人
麻酔・集中治療科:	0人
その他:	50人

IX 自己血輸血について

自己血輸血実施診療所：該当診療所なし（0. 0%）

○貯血式自己血輸血（液状保存）

実施症例数（同種血併用例）：0例（0例）

採血量（貯血量）：0単位

使用量（輸血量）：0単位

○貯血式自己血輸血（凍結保存）

実施症例数（同種血併用例）：0例（0例）

採血量（貯血量）：0単位

使用量（輸血量）：0単位

○回収式自己血輸血

使用量の管理部門での把握：

はい	0診療所
いいえ	1診療所
その他で管理	0診療所
未回答	20診療所

実施症例数（同種血併用例）：0例（0例）

使用量（輸血量）：0mL

○希釈式自己血輸血

使用量の管理部門での把握

はい	0診療所
いいえ	1診療所
その他で管理	0診療所
未回答	20診療所

実施症例数（同種血併用例）：0例（0例）

採血量（貯血量）：0単位

使用量（輸血量）：0単位

X 血漿分画製剤使用状況について

アルブミン製剤合計： 1, 257. 5g

フィブリノゲン製剤合計： 0. 0g

XI 外来輸血および在宅輸血について

(1) 外来輸血または在宅輸血実施

外来輸血	11診療所（52. 4%）
在宅輸血	0診療所（0. 0%）
どちらも実施なし	10診療所（47. 6%）
未回答	0診療所（0. 0%）

(2) 外来輸血後の患者観察

医療関係者	10診療所
患者家族	1診療所

(3) 在宅輸血時の患者観察 該当診療所なし

(4) 外来輸血または在宅輸血を実施している患者の主な診療科

血液内科	0件
消化器内科	1件
循環器内科	2件
その他	8件

(5) 疾患名・人数

血液疾患	:	1件	(2人)
腎疾患	:	8件	(58人)
悪性腫瘍	:	0件	(0人)
消化管出血	:	1件	(1人)
その他	:	1件	(人数記載なし)

(6) 使用されている製剤の種類

赤血球製剤	:	186単位
凍結血漿製剤	:	0単位
血小板製剤	:	0単位

(7) 実施中または実施後の有害事象発生：該当診療所なし

1)内訳： 発熱 0件、アレルギー症状 0件、呼吸困難 0件、血圧低下 0件、その他 0件

2)発生時点： 外来輸血

{ 	院内で実施中	0件
	院内で休憩中	0件
	帰宅中	0件
	帰宅後	0件

(8) 外来輸血に対応した有害事象発生時のマニュアル：3診療所 (14.3%)

(9) 外来輸血実施後の院内での休憩時間

{ 	30分未満	2診療所
	30分以上1時間未満	4診療所
	1時間以上2時間未満	3診療所
	2時間以上	2診療所

(10) 外来輸血が必要とされる患者の紹介先が予め決まっている：5診療所 (23.8%)

(11) 輸血のみを診療目的とする患者の受入：1診療所 (4.8%)

XII 製剤別購入量・廃棄量について

	購入量 (単位)	廃棄量 (単位)	廃棄率 (%)
赤血球製剤	528	2	0.4
血小板製剤	0	0	0.0
血しょう製剤	0	0	0.0